

長 崎 県
ヤングケアラー実態調査
概 要 版

令和5年10月

目 次

調 査 概 要	1
調 査 結 果	2
1 家族の中にお世話をする人の有無	2
2 お世話をしている人	2
3 お世話の種類	3
4 お世話する頻度	4
5 1日当たり平均お世話時間	4
6 お世話をしたことでの経験	5
7 お世話していることの相談について	6
(1) 相談経験	6
(2) 相談相手	7
(3) 相談したことがない理由	8
8 助けてほしいことや必要としている支援について	9
9 ヤングケアラーという言葉の認知状況	10

調査概要

1 調査の目的

本調査は、ヤングケアラーのケアの状況、生活への影響、困りごと、支援ニーズ等を把握し、支援を必要としているヤングケアラーの早期発見や適切な支援につなげるための方策を検討するとともに、ヤングケアラー支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の実施方法

	中学生調査	小学生調査
1 調査対象者と抽出方法	県内の公立中学校2年生、公立の全日制及び定時制高校2年生	県内の公立小学校6年生
2 調査方法	各学校に調査票を配布し、記入後、まとめて回収	
3 調査期間	令和5年6月30日～8月1日	令和5年6月30日～8月1日
4 回収状況	配布数 18,346 回収数 14,437 回収率 78.7%	配布数 11,344 回収数 9,226 回収率 81.3%

3 調査結果の処理

回答比率は、百分比の小数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがある。

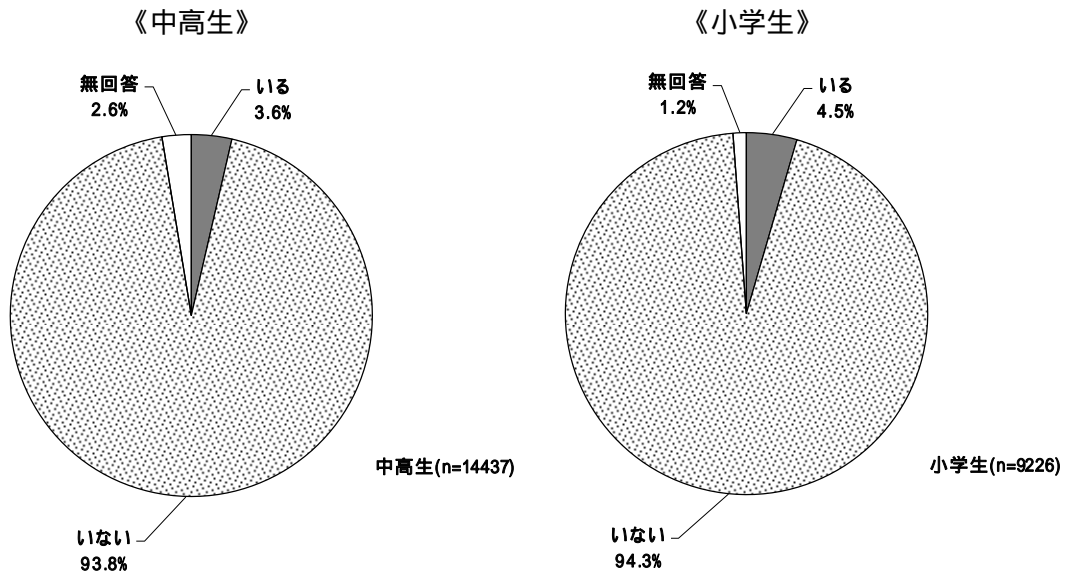
2つ以上の回答を求めた（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。

図に表示された「n」は、回答者数を示している。

調査結果

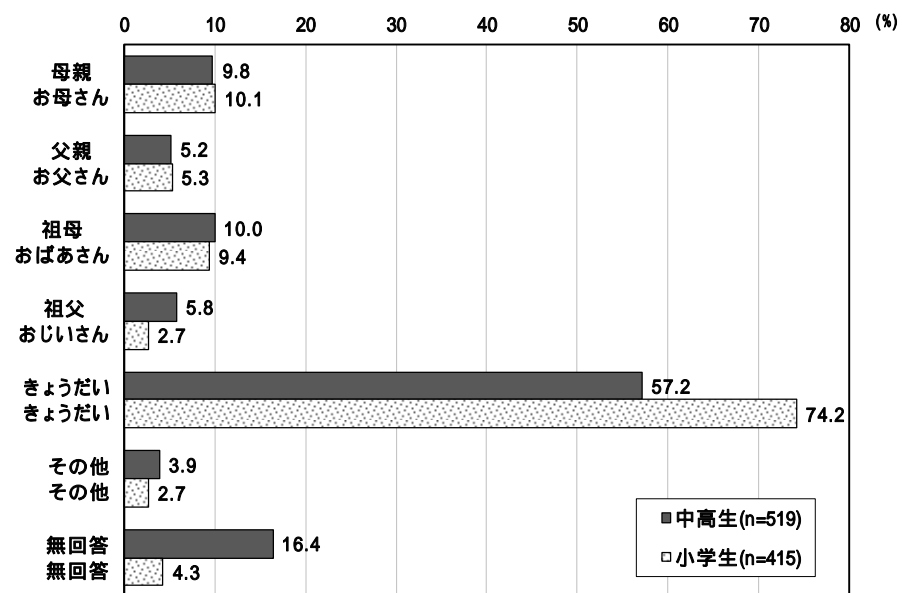
1 家族の中にお世話をする人の有無

家族の中にあなたがお世話をしている人がいるかどうかをみると、「いる」は中高生では 3.6%、小学生では 4.5%となっている。



2 お世話をしている人

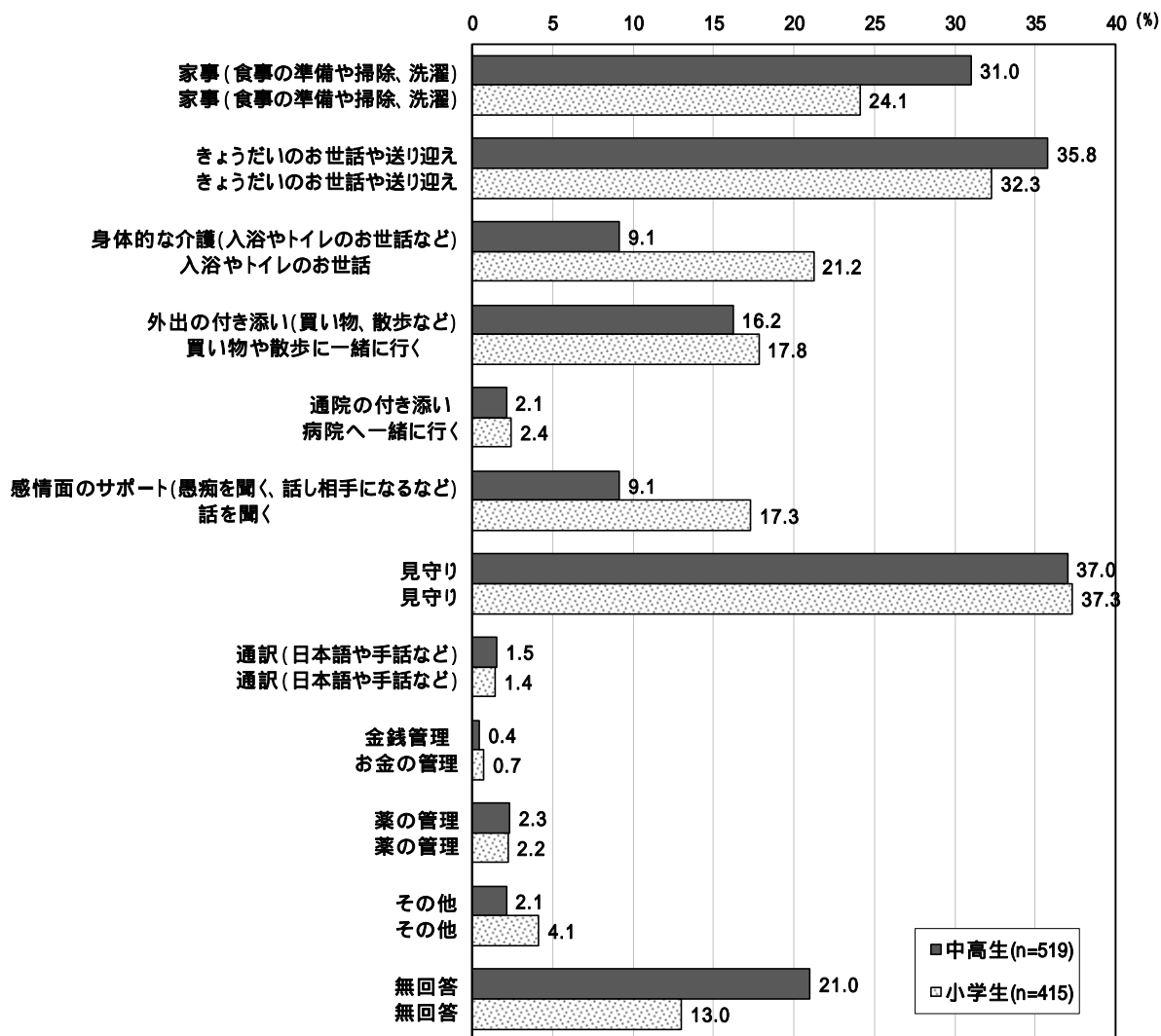
お世話をしている人としては、「きょうだい」が中高生では 57.2%、小学生では 74.2%と最も多くなっている。次いで「祖母」と「母親」が 1 割前後となっている。お世話している人の半数以上は「きょうだい」であり、小学生では 7 割を超えている。



3 お世話の種類

どのようなお世話をしているかをみると、中高生、小学生とも「見守り」が最も多く、「きょうだいのお世話や送り迎え」、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」となっている。

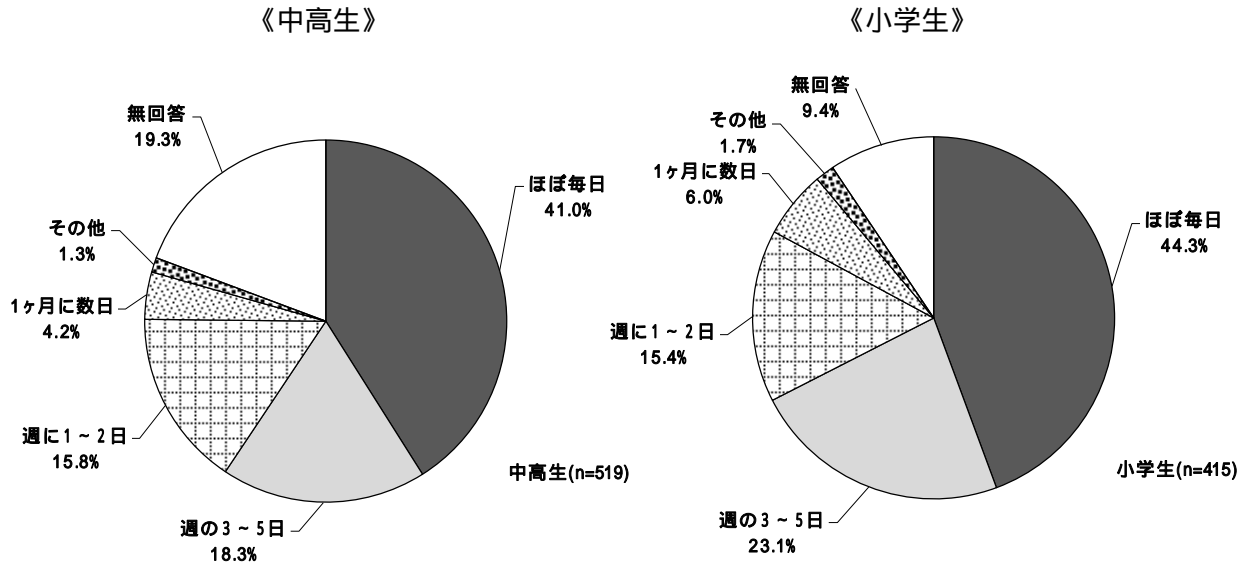
次いで、中高生は「外出時の付き添い」、小学生は「入浴やトイレのお世話」となっている。また、「感情面でのサポート（話を聞く）」も中高生と小学生の差が大きい。



(注1) 上段: 中高生の選択肢 下段: 小学生の選択肢

4 お世話する頻度

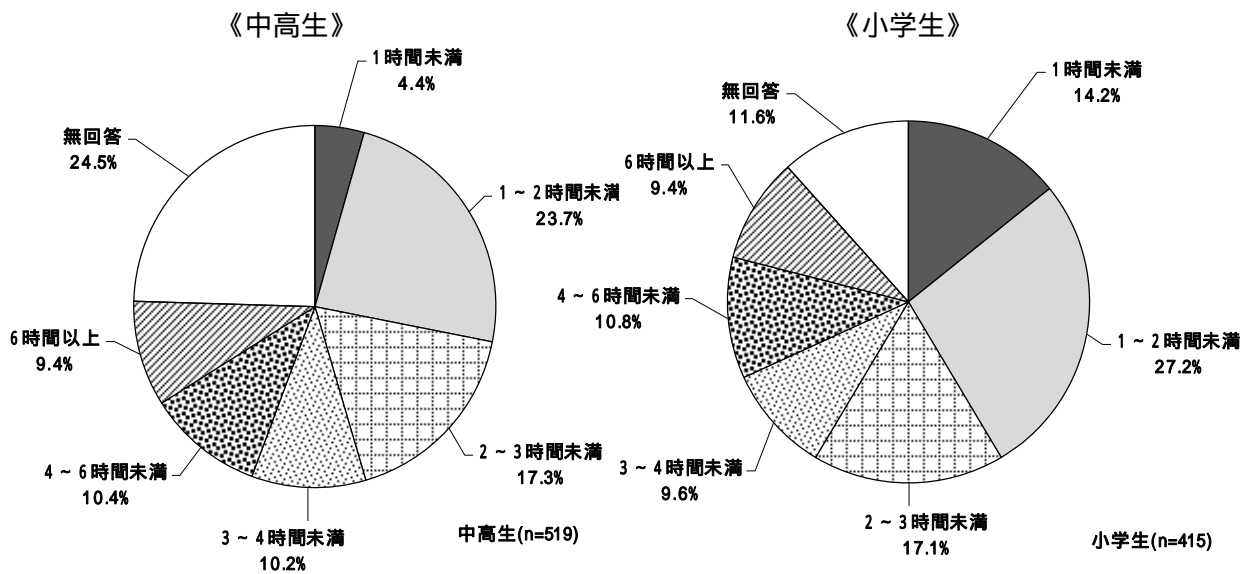
お世話をする頻度としては、中学生、小学生とも「ほぼ毎日」が最も多く、次いで「週の3～5日」、「週に1～2日」(15.8%)となっている。週に1日以上割合は中学生で75.1%、小学生で82.8%となっている。



5 1日あたり平均お世話時間

お世話をする平均時間としては、中学生、小学生とも「1～2時間未満」が最も多く、次いで「2～3時間未満」となっている。「1時間未満」は中学生では4.4%と少ないが、小学生では14.2%と多くなっている。

1日あたりのお世話時間をみると、中学生が3時間12分、小学生が2時間42分、中学生の方が30分長くなっている。



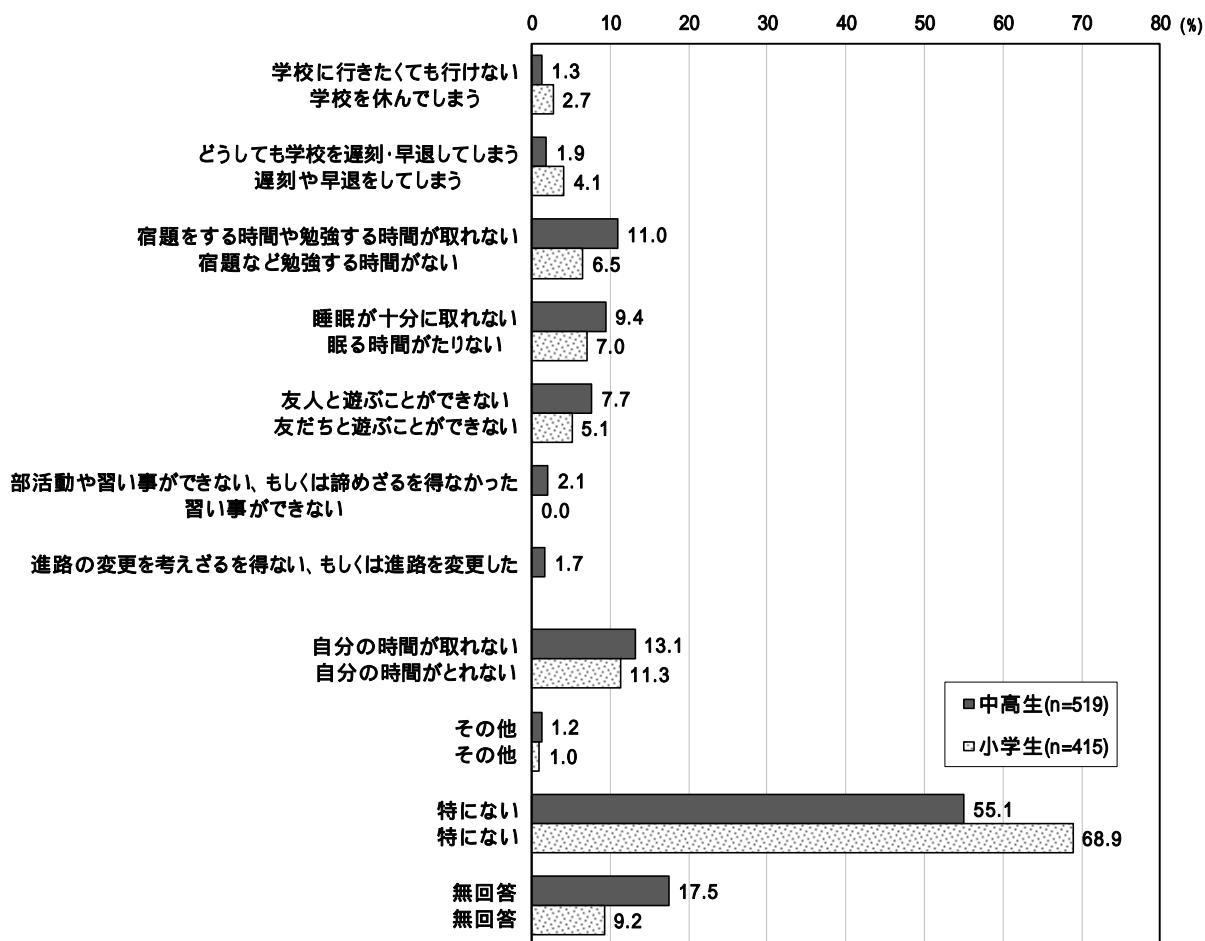
1日あたり平均お世話時間 3時間12分

1日あたり平均お世話時間 2時間42分

6 お世話をしたことでの経験

お世話をしたことにより経験したこととしては、中高生、小学生とも「特にない」が最も多くなっている。

具体的な経験としては、中高生、小学生とも「自分の時間が取れない」が最も多く、次いで「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」が多くなっており、中高生と小学生で大きな差はみられない。



(注1) 上段: 中高生の選択肢 下段: 小学生の選択肢

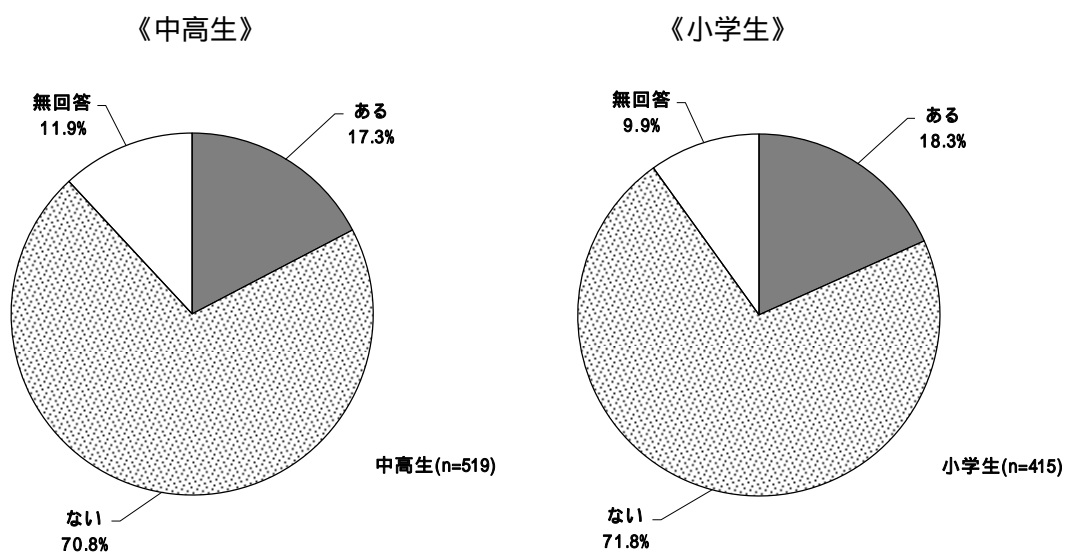
(注2) 印は小学生には提示していない。

7 お世話していることの相談について

(1) 相談経験

お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談した経験としては、「ある」は中高生で 17.3%、小学生で 18.3%となっており、大きな差はみられない。

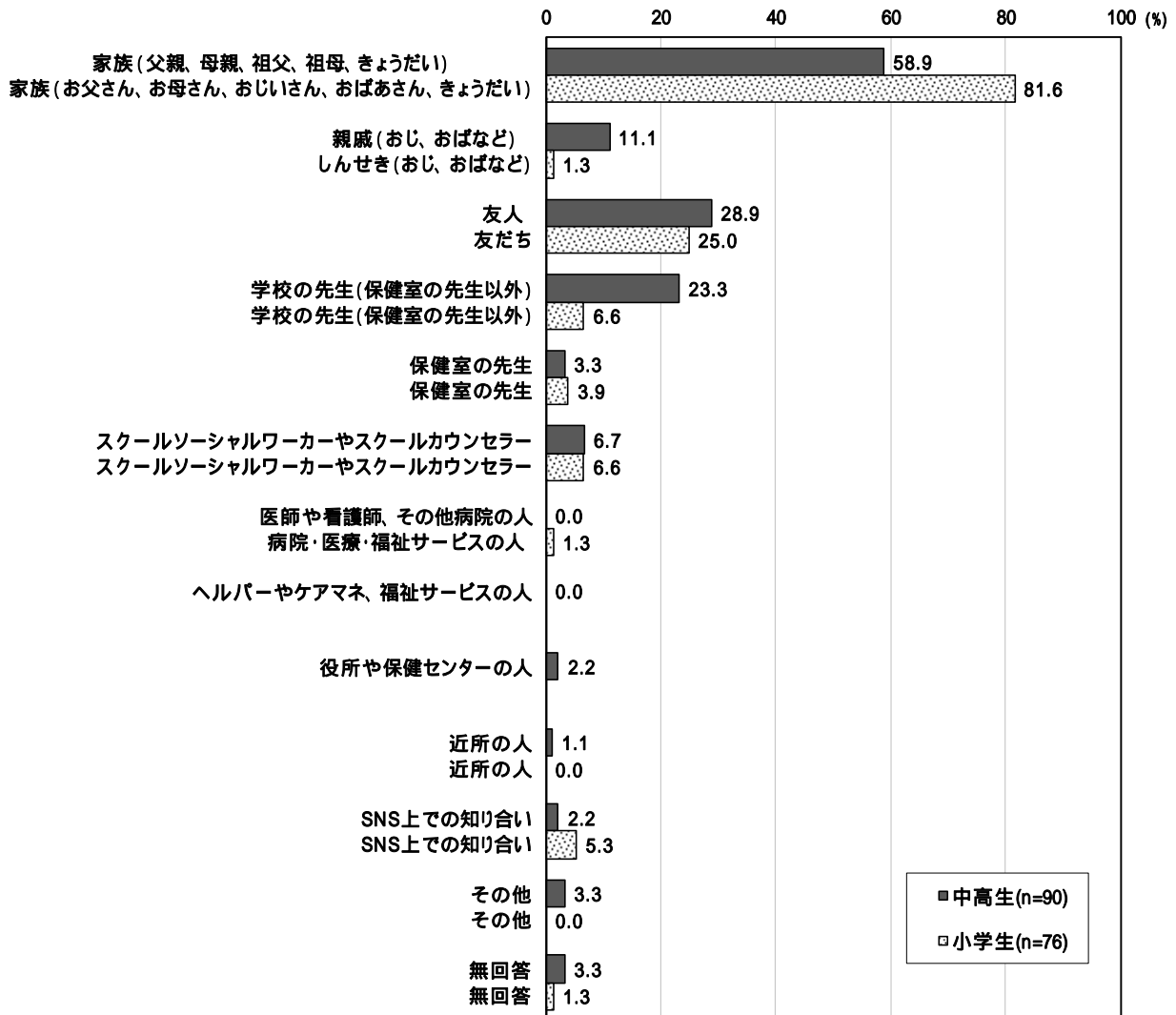
ただ、中高別にみると、中学生は 14.3%であるが、高校生では 23.1%と多くなっており、成長とともにお世話の負担感が強くなっているものと推測される。



(2) 相談相手

お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談した経験のある人が相談とした相手としては、中高生、小学生とも「家族(父親、母親、祖父、祖母、きょうだい)」が最も多くなっている。ただ、小学生では81.6%あるが、中高生では58.9%と小学生よりも22.7ポイント少なくなっている。2番目に多い相談相手は、中高生、小学生と「友人」となっている。

また、中高生では「家族」が少なくなる分、「学校の先生(保健室の先生以外)」や「親戚(おじ、おばなど)」が多くなっている。

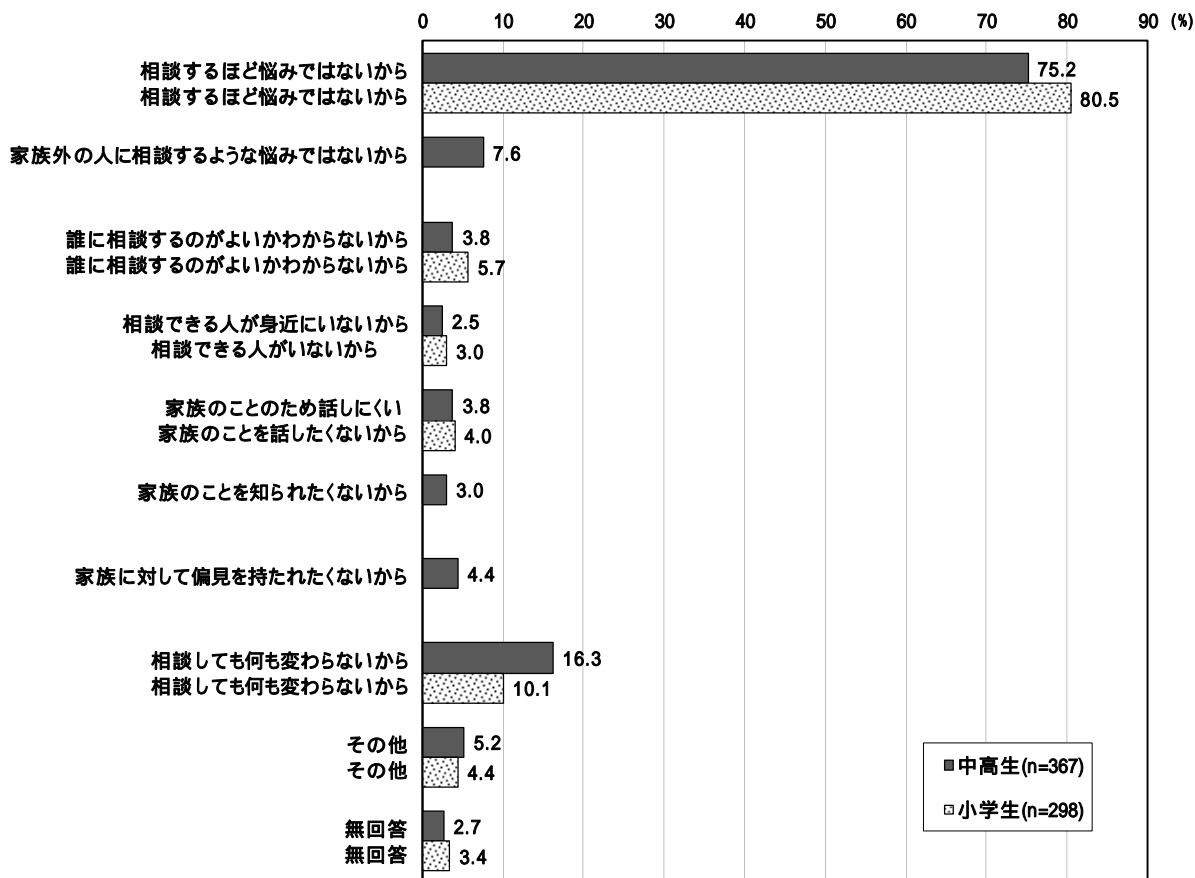


(注1) 上段: 中高生の選択肢 下段: 小学生の選択肢

(注2) 印は小学生には提示していない。

(3) 相談したことがない理由

お世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて誰かに相談した経験のない理由としては、中高生、小学生とも「相談するほど悩みではないから」が圧倒的に多く、次いで「相談しても何も変わらないから」となっている。加えて、中高生では「家族外の人に相談するような悩みではないから」



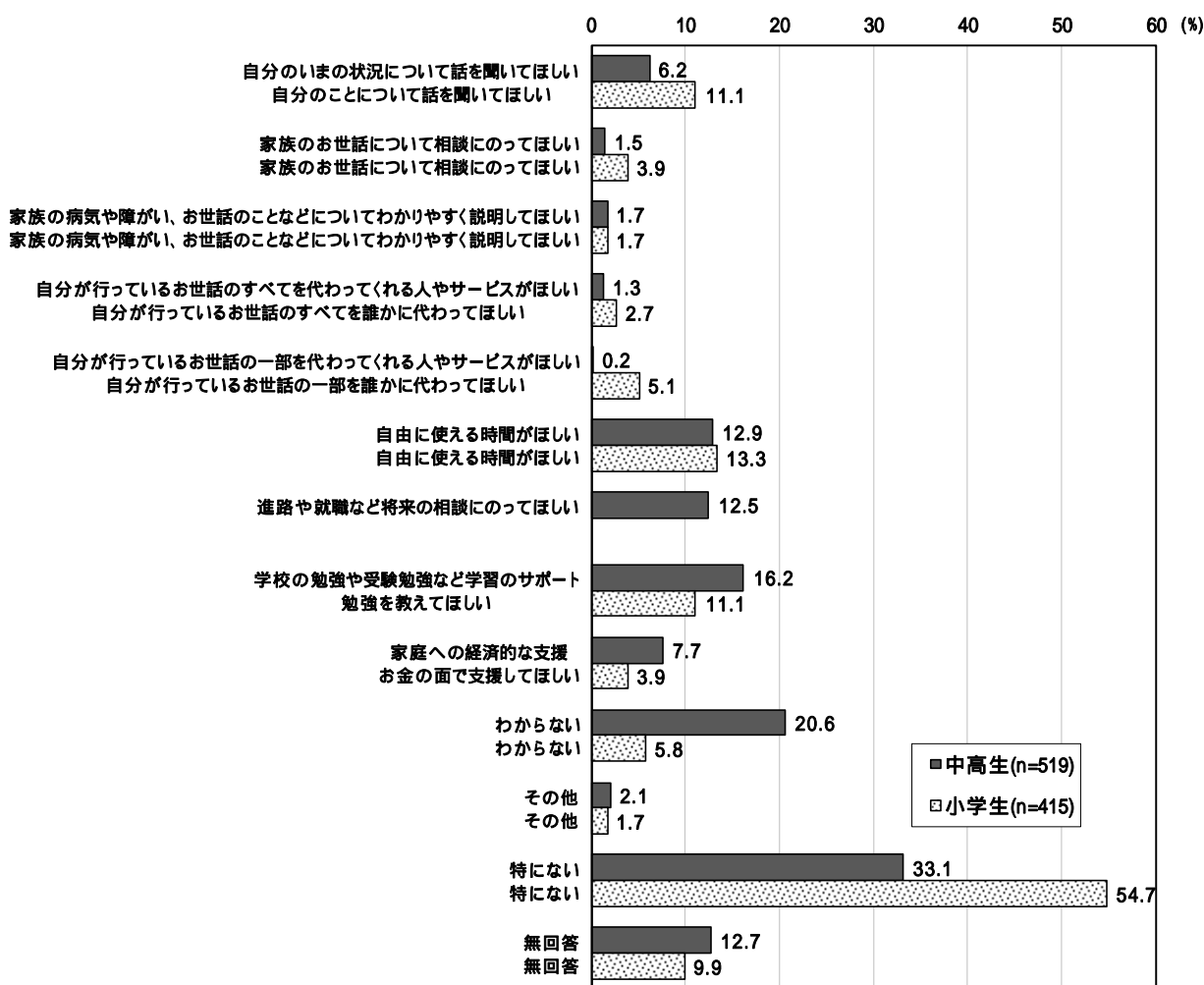
(注1) 上段: 中高生の選択肢 下段: 小学生の選択肢

(注2) 印は小学生には提示していない。

8 助けてほしいことや必要としている支援について

学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援としては、中高生、小学生とも「特にない」が最も多く、小学生では半数を超えている。中高生では「わからない」が2番目になっている。

必要な支援の内容としては、中学生では「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」、小学生では「自由に使える時間がほしい」、「自分ことについて話を聞いてほしい」、「勉強を教えてほしい」となっており、中高生と小学生で必要としている支援に差がみられる。



(注1) 上段: 中高生の選択肢 下段: 小学生の選択肢

(注2) 印は小学生には提示していない。

9 ヤングケアラーという言葉の認知状況

ヤングケアラーという言葉については、「聞いたことがあり、内容も知っている」は中高生で26.1%、小学生で12.5%、「聞いたことはあるが、よく知らない」は中高生で21.8%、小学生で17.6%となっている。

「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、よく知らない」を合計した認知率は、中高生が47.9%、小学生が30.1%となっている。

